

「全国学校・園庭ビオトープコンクール 2023」発表大会
秋篠宮皇嗣殿下お言葉

令和6年2月4日

はじめに、今年の元旦、石川県の能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生いたしました。この地震によって、石川県を中心に甚大な被害が生じました。本日ここに集われている皆様も心を痛めておられることと思います。

この地震で亡くなられた方々に哀悼の意を表します。そして、被災されている数多くの方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、被災した地域の復旧・復興を願っております。

本日、隔年で開催されている「全国学校・園庭ビオトープコンクール2023」の発表大会に、皆様とともに出席できたことを大変嬉しく思います。そして、このたび各賞を受賞される方々に心よりお祝いを申し上げます。

さて、2022年の「国際連合生物多様性条約第15回締約国会議」において、2050年に自然と共存する世界を実現するため、2030年までに生物多様性の損失を止め、回復に転じさせる^{とど}、“Nature Positive”の方向性が示されました。これに向けた取り組みとして、2030年までに陸域と海域それぞれの30%を保護・保全する“30 by 30”を主要な目標の一つとして掲げました。

2019年の国連報告書によれば、今後数十年で、およそ100万種の生物が絶滅するおそれがあると言われております。持続可能な開発目標、いわゆるSDGsには、目指すべき世界像として、「人類が自然と調和し、野生動植物その他の種が保護される世界」が記されております。そのことを達成するためには、私たち一人ひとりが自然からの恩恵を理解するとともに、自分たちの身近にある自然をよく観察し、関心を深めていくことが大切です。

その意味において、学校や園庭に作るビオトープは、そこに通う人たちにとって、自然と触れ合う場にとどまらず、自然との共存について考える大切な機会を提供してくれる場になると思います。このたびのコンクールにおける受賞事例では、普段生活する空間で様々な人々が協力し合い、自然との共存を試行する興味深い取り組みが行われていると伺っております。

そして、このような意義深い取り組みが広く紹介されることは、持続可能な社会の実現に向けた人づくり・地域づくりにも大きく貢献するものと考えます。

本コンクールも今回で13回目を迎え、学校や園にビオトープがあることの大切さが広く認識されるようになってきたことと思います。このことは、本活動に携わってこられた多くの方々のご尽力によるものであり、ここに深く敬意を表します。

おわりに、学校・園庭ビオトープの取り組みが、今後も日本の各地で普及し、自然を慈しむ心の輪が広がっていくことを祈念し、私の挨拶といたします。